平成 25 年度　シラバス	学年・期間・区分	３年次 ・ 通年 ・ A 群
	対象学科・専攻	留学生
日 本 語 (Japanese language)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟１階 非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ １単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（45 分)〕×30 回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　主に書き言葉を中心に、伝えたい内容がより伝わりやすくするためにどうすればよいかを学ぶ。

〔本科目の位置付け〕　高専におけるレポート等の課題に取り組む為の基礎的な日本語力及び、書き言葉（文書）における最低限のマナーや書式を理解し、学生生活とその後の日本における社会生活の基礎をつくる。

〔学習上の留意点〕　講義の内容をよく理解するために、毎回、復習をすること。理解状況を把握するために、前期は単元ごとの小テスト、後期は文法練習や作文の宿題を課す。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
１．アカデミックワード	2	□ アカデミックワードと日常語の区別ができる		各授業内容について、教科書や文献・インターネットを使って、概略を勉強しておく。
２．仮名遣い・送り仮名	2	□ 仮名遣いの基礎が理解できる		
３．句読点	2	□ 正しい・効果的な句読点の打ち方がわかる		
４．四字熟語・ことわざ	2	□ 日常生活でよく用いられることわざ表現等が理解できる		
５．漢字の使い分け	2	□ 漢字表記のルールが分かる		
６．見やすい表記	4	□ 読み手の立場に立った見やすい表記ができる		
７．敬語	4	□ 敬語を使い分けられる		
８．手紙	2	□ 基本的な手紙・はがきの書式にのっとって文書が書ける		
９．Ｅメール	2	□ E メールのマナーや書き方などを理解し、文書が書ける		
１０．あいまいな文	2	□ 伝えたいことと伝わることの差を理解できる		
１１．分かりやすい語順	2	□ 聞き手が、より理解しやすい語順で話せる		
１２．長い文を分ける	4	□ 要点を意識しながら、文を再構成することができる		

〔教科書〕　『大学生のための 日本語表現トレーニング　ドリル編』三省堂
『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク

〔参考書・補助教材〕
『日本語能力試験に出る漢字２級』国書刊行会

〔成績評価の基準〕　平常テスト（１００％）-授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕　1-a , 2-a
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕
〔JABEE との関連〕

Memo

平成 25 年度　シラバス	学年・期間・区分	3・4 年次 ・ 通年 ・ A 群
	対象学科・専攻	留学生
日 本 語 (Selective Japanese language)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟１階 非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ １単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（45 分）〕×30 回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　レポートの書き方や、データの読み方等、本学で課されるレポート課題や論文、研究発表等を行う際の基礎となる日本語力・表現能力を身につける

〔本科目の位置付け〕　高専でのレポート課題等に取り組む上での基礎。

〔学習上の留意点〕　講義の理解状況を把握するために、単元ごとの小テストを行うので、毎回、復習すること。また、漢字宅習を義務づけ、毎週そのチェックテストを行う。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
１．文のねじれ	４	□ ねじれのない文が書けるようになる		各授業内容について、教科書や文献・インターネットを使って、概略を勉強しておく。
２．接続表現の使い方	４	□ 接続表現を正しく使える		
３．結論を先に述べる	４	□ より聞き手が理解しやすい構成について考える		
４．事実か意見か	４	□事実と自己の意見をしっかり区別して表現できる		
５．データの解釈	４	□グラフやデータから、正しい情報を読み取ることができる		
６．レポートの書き方 レポートの構成 注の書き方 参考文献の書き方 引用の仕方 体裁・書式	１０	□ レポートの書き方の基礎を身につける		

〔教科書〕　『大学生のための 日本語表現トレーニング　ドリル編』三省堂
『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク

〔参考書・補助教材〕　『日本語能力試験に出る漢字１級』国書刊行会
『日本語能力試験に出る漢字２級』国書刊行会

〔成績評価の基準〕　平常テスト［復習テスト（５０％）＋漢字テスト（５０％）］―授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕　1-a , 2-a

〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕

〔JABEE との関連〕

Memo

平成 25 年度　シラバス	学年・期間・区分	３・４年次 ・ 通年 ・ A 群
	対象学科・専攻	留学生
日本語・日本事情 (Japanese and Japanese Culture)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟１階　非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ ２単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（90 分）〕×30 回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　日本語能力を向上させ、日本社会で必要とされるコミュニケーション能力を鍛える

〔本科目の位置付け〕　高専での学習のみならず、日本での社会生活全般の基礎となる。

〔学習上の留意点〕　講義内容をよく理解するために、毎回復習をすること。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
１．ひと味違う自己紹介	4	□ 聞取りやすく、印象に残りやすい自己紹介ができる		各授業内容について、教科書や文献・インターネットを使って、概略を勉強しておく。
２．今どきの大学生	6	□ 自国と日本の学生生活の違いを比較し説明ができる		
３．「買う」楽しみ	6	□ 合理的・非合理的な日本人の買い物意識について理解し、発表できる		
４．不思議な習慣	6	□ 日本での不思議な習慣について意見を述べることができる		
５．心と体のバランス	6	□ 身体や心の状態を詳しく説明ができる		
−前期末試験−		授業項目1、2、3、4、5について達成度を確認する		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解する		
６．日本の会社に入るまで	6	□ 日本の社会生活と自国の違い、日本の就職活動の特徴等を調べ、口頭で発表できる		
７．女と男	6	□ 男女の違いについて、各国のイメージを比較し、自分の言葉で表現できる		
８．日本の子供たち	6	□ 日本と自国の親子関係や青少年の休日の過ごし方の違いを理解できる		
９．間取りの本当の意味	6	□ 簡易な図や表を読み取り理解することができる		
１０．地球を守る	4	□ グラフなどから正確にデータを読み取ることができる		
−後期末試験−		授業項目6、7、8、9、10について達成度を確認する		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解する		

〔教科書〕　『生きた素材で学ぶ　中級から上級への日本語』the Japan Times

〔参考書・補助教材〕　『生きた素材で学ぶ　中級から上級への日本語　ワークブック』the Japan Times

〔成績評価の基準〕　期末試験成績（６０％）＋　発表（４０％）-授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕　1-a , 2-a , 4-b

〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕

〔JABEE との関連〕

Memo